

愛

題字 春霞 書

## 日本福音ルーテルなごや希望教会

発行所 名古屋市千種区今池 3-5-19

今池礼拝所

Tel.052(732)5545

名古屋市千種区富士見台 4-100 自由ヶ丘礼拝所

Tel.052(722)5796

名古屋市名東区高柳町 708

名東礼拝所

Tel.052(771)5267

発行者 末竹 十大

2015年1月1日発行

新年 特別号

### 聞き従って 魂に命を得よ

牧師 末竹 十大

「聞け。そして、あなたがたの魂は生きる」

イザヤ書 55 章 3 節の原文はこうである。「聞いて、従う」という言葉ではなく、「聞く」という言葉だけである。従って、「聞く」ならば、「あなたがたの魂は生きる」と主は言われたのだ。

聞くだけで、魂が生きてはどういうことであろうか。我々は、聞いて実行することで生きて考えてしまう。聞くだけではどうにもならないと思ってしまう。「わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。」(マタイ 7:26)とイエスはおっしゃっているのだから、実行しなければダメなのだと考えてしまう。こうして、我々は自らの実行力によって、神に従うのだと考えるのである。これが人間の愚かさであり、罪である。

先のイエスの言葉を人間の実行力のことだとか、人間の意志力のことだと考える場合、あくまで人間が主体である。「聞くだけで行わない」ということは、聞いた言葉が生きていないということなのである。聞いた言葉が、あなたを生かしていないということなのである。

しかし、聞くことによって生かす神の

言は、如何にして我々を生かすのだろうか。

使徒パウロは、

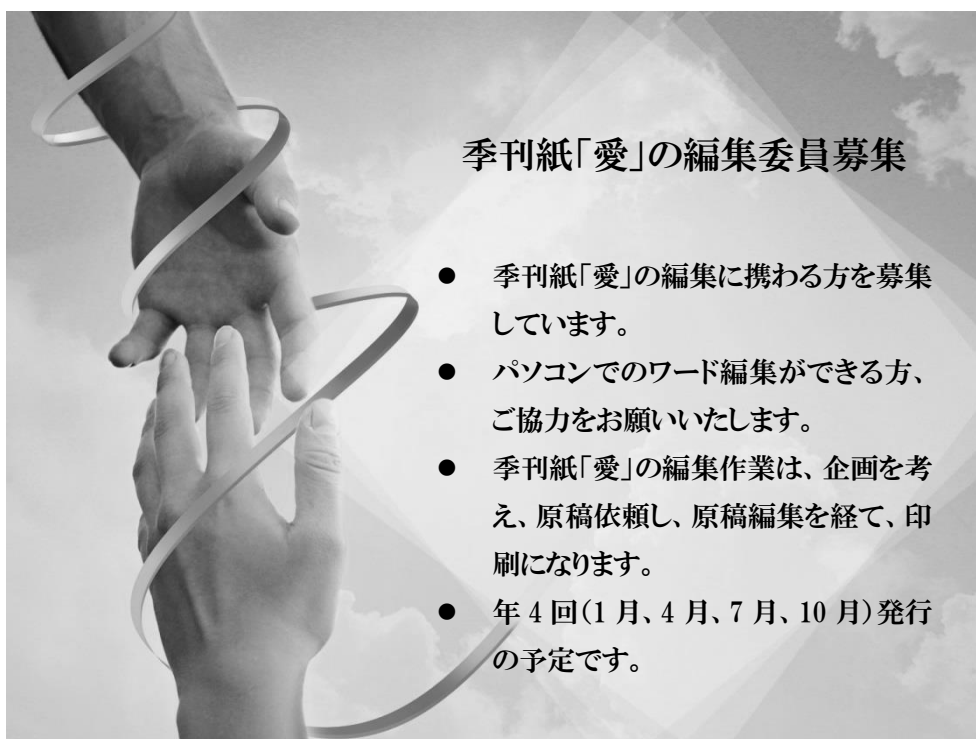
ローマの信徒への手紙 10 章 17 節で、信仰は「聞く」ことから始まると語っている。一人ひとりが自らの魂でみことばを聞くとき、信仰が来たり、信仰が我々を神に従う者として生かすのである。

あなたがみことばを聞いても、命を回復できないとしたら、あなたの魂が自らの力に依り頼んでいるからである。失望、落胆の中でも、人は自らの力に頼るものである。純粋に「聞く」ということがなかなかできず、意味を求める。自分がどうにかなることで、生きる力が与えられるのだと。あなたの求める意味ではなく、神の言だけがあなたの力なのだ。「聞け。そして、あなたがたの魂は生きる」と言われているのだから。

「聞け」と主は言われる。聞かない者ではなく、聞く者であれ。聞き続ける者であれ。そのとき、あなたは神の言に支配され、神の言があなたのすべてとなり、神の言があなたの魂を生かすのだ。

新しい年をみことばを聞く者として生きていこう。





### 季刊紙「愛」の編集委員募集

- 季刊紙「愛」の編集に携わる方を募集しています。
- パソコンでのワード編集ができる方、ご協力をお願いいたします。
- 季刊紙「愛」の編集作業は、企画を考え、原稿依頼し、原稿編集を経て、印刷になります。
- 年4回(1月、4月、7月、10月)発行の予定です。



